

# 高層住宅震災対応マニュアル 作成の手引き



## はじめに

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災の被害やその時の状況は、まだ皆さんの記憶に強く残っていらっしゃるのではないのでしょうか。私達はその経験や感じたことを活かし、近い将来に起こりうる大地震に備える必要があります。

地震の備えは、まず「自助」が基本です。最低 3 日分、できれば 1 週間分の食料・水の確保や住居内の安全対策は、各ご家庭で取り組みましょう。

次に隣近所やマンションの皆さんで助け合う「共助」の精神で取り組むことが大切です。東日本大震災の時も、様々な助け合いが行われ、その必要性を強く感じた方も大勢おられたように、一人より二人、二人よりももっと大勢で力を合わせれば、心強いことはもとより、様々な対応ができるようになります。

大地震が発生した場合、マンション内では、家具の移動や転倒による家の中でのケガなどの被害、エレベーター内の閉じ込め、エレベーターの停止によって生活上の移動が困難になるなど、様々な影響が考えられます。

マンションの外では、交通機関が止まって家族が家に帰れない、物資が不足して必要な人に必要なものが届かないといった状況も考えられます。

また、高齢者や障害者、外国人、乳幼児などには、それぞれのニーズに応じた対応が必要です。さらに、被災時の男女のニーズの違いも考慮し、男女双方の視点に配慮する必要もあります。



東日本大震災の時に物資が売り切れてしまった区内のスーパーの様子

被害をできるだけ小さくするためには、今のうちから防災時の活動を考えておくことや、活動を行うための組織づくりに取り組んでいただくことが大変重要です。

ぜひ、この冊子を参考に取り組みを進めてみてください。

# 高層住宅震災対応マニュアル 作成の手引き

## 目 次

### 第1編 手引きの目的と構成

- 1. 手引きについて ..... 1-1
- 2. 手引きの構成 ..... 1-2

### 第2編 震災対応マニュアルの作成のしかた

- 1. 震災対応マニュアルの策定の流れを確認しよう ..... 2-1
- 2. 震災対応マニュアルを作成してみよう ..... 2-2
  - 2-1. マニュアル策定組織の設置、進め方の検討 ..... 2-2
  - 2-2. 現状の把握 ..... 2-4
  - 2-3. 活動体制・内容の検討 ..... 2-6
  - 2-4. マニュアルの検証と改善 ..... 2-20
  - 2-5. 居住者への周知 ..... 2-20
  - 2-6. マンションのタイプによる留意点 ..... 2-21
- 3. 今からできること ..... 2-23

### 第3編 標準マニュアル

- 1. 標準マニュアルについて ..... 3-1
- 2. 震災対応マニュアル（例） ..... 3-3
- 3. 事前対策マニュアル（例） ..... 3-35

## 第 1 編 手引きの目的と構成



# 1. 手引きについて

## 江東区では、多くの方が高層住宅にお住まいです

江東区では、区民の8割以上が集合住宅に居住し、そのうち約5割が11階建て以上の高層住宅に居住しています。（平成22年国勢調査）

特に、近年では臨海部を中心にタワー型の超高層の集合住宅が増加しています。

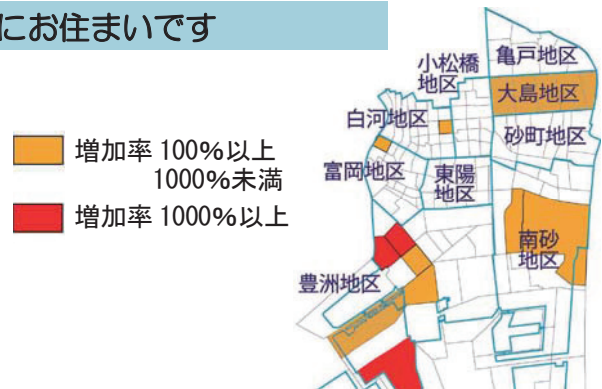


図 平成17年～27年の世帯数増加率が高い町丁目  
(住民基本台帳各年1月1日)

## 高層住宅では、大地震時に多くの問題が集中することが考えられます



高層住宅は耐震性に優れており、大地震が発生した場合でも倒壊する危険性は少ないと言われています。

しかし、高層階の大きな揺れで家具が転倒してけがをするかもしれません。また、電気・ガス・水道などのライフラインやエレベーターが停止した場合、安否確認や救援救護活動、移動が制限されて、困難な被災生活を余儀なくされることが考えられます。特に、高層階にお住まいの方や、災害時要支援者にこれらの問題が集中することが考えられます。

## 一緒にお住まいのみなさんと共に、高層住宅の防災対策を進めましょう！

大地震時に考えられる多くの問題に対処するには、お住まいの方々自らが、進んで守り備えることが重要です。こうしたことから、江東区では、マンションごとのマニュアルの作成を推奨しています。

この冊子は、高層住宅にお住まいの方、管理組合、町会・自治会のみなさんが、大地震発生に備えた活動や、そのための組織づくりなどの取り組みを進めるにあたって参考にいただき、マニュアルとして取りまとめていくための手引きとして作成しました。

まずはこの手引きをご覧ください、できそうな内容から、お住まいの高層住宅に合ったマニュアルを作ってみましょう。



## 2. 手引きの構成

「第1編」は、手引きの目的などをお伝えしています。

「第2編」は、マニュアルで検討すべき内容について解説をしています。

「第3編」は、マニュアルとして考えられる基本的な内容を、標準マニュアル（震災対応マニュアル（例）・事前対策マニュアル（例））として示しています。

### ■手引きの構成

